



## COVER VISION ▶▶▶ &カード/リーフレット



地元大牟田市の企業、(株)平川燃料様と(株)誠善様がコラボレーションして作ったサービス(事業)のリーフレットとカード。地元で有名な燃料会社が事故故障サービスや修理などのサービスまで行なうというもの。企画段階から参画しコンセプトからデザイン、印刷まで行なった仕事。&は「安堵」を意味している。

### ◀ Designers Eye ▶

コンセプトからネーミングが出来上がったところで、この事業のストーリーが見えた。&カードはお客様が様々なサービスで繋がるという文字通りの&と、それによって得られる安らぎ、安心感の「安堵」を掛け合わせている。約1年がかりの長い仕事となったが、最近増刷もしてアイデアも少し安堵だ。



## GWも明けて今年、後半戦の準備は整いましたか？ 『IDEAVISION 03』スタートです！

最近私のブログを読んでいるという方に言われて驚いたことがありました。「佐藤さんは文章を書くことが好きなんですよな？」と言われたことです。実はまったくそんな事はないんです。苦痛ではないにしても、好きではありません。これらは自分に課している挑戦のようなもので、好きとは別次元です。書くことは想像以上にしんどい作業です。ではなぜやっているのか？それは少なからず物事を考え、表現していく機会を作り出していくことで「思うこと」や「考える」ことを深化させるからです。またそうすることで自分自身の中で新しい発見に出合えるからです。

### ★哲学思想から見るアイデア

もともとアイデアの語源でもある『アイデア』とは、プラトンの提唱した哲学に出てくる表現で、簡単に言うと目に見えているものはアイデアという本質の影にすぎない。という意味のことで、転じて本質を見る心の目を指したりもします。私自身はそれが哲学用語であることはあとで知りました。今では本質がどこにあるのかを常に想像しながら形を作り上げていくデザインの逆説的な意味として捉えています。また私自身は仕事に向かう心の指針のようなものを感じていて、今では凄く気に入っています。後にこの意味を知った時にハッとしたのを憶えています。「デザインとは形だけのそれ表すものではない。」という表現はこの時生まれました。

### ★主体を持ちながら客体を形成していく作業です。

先日、ある本に書かれていた哲学概念としての主体と客体の内容を読んだ時に、これはそのままお客様のビジネスやブランディングのことに置き換えられると感じました。

デカルトの有名な「我思うゆえに我あり」という言葉が示す通り、主体(自分)はあたかも自由自在のように思われがちですが、主体とは客体によって規定(形成)される関係にあると認識した時に、主体と客体は「表と裏」のように一対の概念として捉えることができたのです。つまり私という個は、様々なアクションの中にある客体によって形成されていると考えて、それを企業や企業内デザインにあてはめると、企業としての個(主体)は周りの目(お客様の目)客体による客観(思い)によって成り立っていると考えることができます。するとデザインとは主体が主体的に客体を作り上げる作業であると言えるのではないだろうか？つまり客体に向けたあらゆるサービスのサービス価値があって、主体は存在(形成)されるという考えにいたりしました。

また同じ商品がパッケージ一つ、コピー一つで売れたり、売れなかったりするのは運、不運ではないはず。上手くいかないのは主体が本来対としての客体(お客様の目)を軽視しているからではないだろうか？主体の概念を確立したデカルトの「我思うゆえに我あり」は、ビジネスにおいては不十分あることを言い当てています。それゆえ企業のデザイン活動を我思うゆえの自己満足(マスターベーション)と嘲笑する人もいますが、とんでもないことです。客体であるお客様が存在しなければ主体は存在しえない。とすれば客体に向けた様々なサービスは別の見え方をしてくるだろう。それでもまだ自己満足と言えるだろうか？しかも一対であるがゆえに自己も満足しえないことに客体も思いをよせないだろう。また自己満足でも「しなければ」何も起らない…。その事の方がよっぽど問題だと感じています。

## 「客思うゆえに我あり」

### 主体あっての客体であり、客体あっての主体である。

いわゆる詐欺行為や社会的犯罪行為は主体と客体が一対であることを見誤って起ったものと考えれば納得できます。客体を軽視すれば主体は存在できないことは、これまでの最悪、劣悪なニュースが物語っていますね。また一方で成功している主体は自ずとこの概念にそった行動をしていることが見えてきました。「お客思うゆえに我あり」。これならシンプルでわかりやすい。良い行いも、悪い行いも全て自分に帰ってくるということが、この哲学概念からも理解できたことは自分にとっては大きかった。またこれによって主体(企業)にとってのデザインの意義も証明できる。ちょっとだけプラトンのアイデアに触れられた気がした。

## ★★★★★★ 編集後記 ★★★★★★

アイデア★デザインファクトリーという名前は何となく付けた名前でした。でも当時からデザインのその先を考えていて、その根本はどこかな？と考えた時にIDEAに辿りつきました。アイデアを創り出す工房(工場)のような存在になりたいという思いから、この屋号に決めた。何となく後に大きな出会いや意味を持つてくることは自分の人生において珍しくない。今、福岡に住んでいるように…



阿蘇で蕎麦粉のガレットが食べられるお店「galette」は店の作りがメルヘン！次号は6/15日頃リリース予定